

## 吉田神道への道教の影響

小山内 康生

神道吉田神道（唯一宗源神道）とは、伊勢神道、両部神道と並んで中世神道を代表する神道の一つである。京都吉田神社の祠官吉田兼俱（1435~1511）によって創唱・大成された神道説であり、中世後期（15世紀）の神祇界、宗教界、思想界に大きな影響を及ぼした。

この神道説の形成に当たり、兼俱は様々な宗教・思想を取り入れたが、その中の一つに道教がある。特に兼俱の主著である『唯一神道名法要集』中には「北斗元靈經云」という形で道教典籍の名前を挙げており、吉田神道が道教の強い影響を受けていることは明白であるため、吉田神道と道教との関係性をめぐる研究が展開されてきた。

さて、道教には北斗經と呼ばれる北斗の星々に延生と幸福を祈願する経典が存在するが、吉田神道にも北斗經の経典が存在する。さらに、先行研究によると、兼俱は北斗經『太上玄靈北斗本命延生真經』の註本を写本として書き残していた。よって、吉田神道の北斗經には道教からの強い影響が予想される。

そこで、今回筆者はそれら吉田神道の北斗經の経典より『北斗行法次第』を挙げ、それと『太上玄靈北斗本命延生真經註』並びに他いくつかの道教典籍とを比較し、引用などの道教からの影響が直接見られる箇所がないかを調査することにした。

調査の結果、吉田神道には多数の道教典籍からの引用が発見された。特に、兼俱が写した註本を基としたであろう内容はほぼ全文が『北斗行法次第』に引用されており、吉田神道の道教への強い関心が窺えた。

しかし、一方で、引用の記述に意図的と思われる改変や記述の内容こそ同じもののその使われる文脈から道教本来の用途とは異なると思われる呪も見つかった。また、『北斗行法次第』と北斗經の註本、吉田家の写本との三者を比較してみたところそれぞれに内容が一致しない箇所も出てきた。よって、吉田神道は道教に強い関心を示しつつも、そこから吉田神道独自の発展を求めていたと推測される。

（指導教員 松本浩一）